



優勝の清水

第10回市民タイムス杯少年サッカー新人戦の決勝は、平成4年いらい2度目の決勝進出を果たした清水と、初の長野の間で争われ、清水は4-0で長野を下した。清水は積極的にオープン展開し、有利に試合を進めたのに対して、長野は守り中心となり、本来のサッカーができなかった。

▽準々決勝	中野	清水	長野	▽準決勝	清水	長野
0-0	1-0	1-0	2-0	1-0	2-0	2-0
坂城北	松島	松島	花	中野	花	花

第10回市民タイムス杯 少年サッカー新人戦

○：裾花の準決勝の相手は同じ北信リーグに所属する長野。これまでに何度か顔を合わせた。先月中旬の週刊長野杯では3-0で破っているが、「油断は禁物」と父母ら十人は、試合開始から最後まで立ちっ放しでの応援を続けた。FWの寺沢圭司君の母・喜美さん(三きはこれまでの調



父母の応援にこたえ、最後まで懸命のプレーを続けた裾花

北信勢活躍 新たな出発

○：ベスト4入りをした中野、長野、裾花、清水。北信の中野、長野、裾花は初めての進出で、清水は平成四年いらい三回目。このうち中野は準決勝で清水と対戦し、0-2と惜敗した。朝六時に出発してきたという中野の町田信監督は「これで清水とは二戦二敗。うちはスピードと技術はあるが、最後の決め手を欠いた」とがっかり。「スピードでは自信をつけたが、技の正確さを身につけたい」と、新たなスタートを期した。

よりハイレベルに

スピードと技競う

戸谷典孝清水監督の話 あきらめず最後まで走ってボールを取れたことが勝因。攻めのチームなので理想の展開だった。欲しかった

念願のタイトルを取れてうれい。

攻撃もみんな頑張ってくれた。次の試合では勝てなくてもいいところまでいきたい。

▽決勝
清水4 (2-0) 0長野

【評】立ち上がりからベースをつかんだ清水は積極的にオープン展開し、効果的に得点を重ねた。

後半、風上となった清水は七分、藤本が左からのコーナーキックを直接けり込んで3点目。さらに十九分にも中央から水瀬が持ち込み、相手キー

パーがほしいところを左から山口が押し込んでタメ押しした4点目を奪った。

長野は序盤から守りに入り、得点チャンスにも清水のゴールキーパー・伊藤の好守備に阻まれ、ゴールを割ることはできなかった。

から桑野がゴール左に先制し、1点。前半終了間際の十九分には、右スロイングから山口がセンタリングし、田中がハーフボレーシュートを放ち2点目を加え、優位に立った。

伊藤直一長野コーチの話 準決勝の裾花戦で力を使い切り、体力切れた。一点は取りたかったが。決勝戦での悔しさをはねにしたい。

決勝戦の緊張感で、それまでのプレーができなかったし、清水のほうがいろんな面でうまかった。次の大会では、清水を倒すことを目標に頑張りたい。



準優勝の長野

3位の中野



3位の裾花

